

## 「植物育種のためのトランスオミクスモデリング」

岩田 洋佳（東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授）

植物の環境応答のモデル化は、これまで主に、環境と表現型の関係を記述する作物モデルなどを用いて行われてきた。本研究では、作物モデルの利用についても検討する一方、既存のモデルに頼らずデータ駆動型でモデル化する手法の研究も進めている。近年のオミクス技術の発展により、現在では、圃場で生育する植物について様々なオミクスデータを収集することが可能となっている。我々は、圃場でオミクスデータを収集するための技術開発と、得られるオミクスデータを利用した植物環境応答のモデルの研究開発を進めている。本報告会では、研究進捗についてご紹介するとともに、これら技術やモデルを用いた育種や栽培管理について展望をお話する。